

演じる アニマトロニクス

ハイクオリティー・スーツ“パンダ” / お許ロボット / ほか
(株式会社 円谷プロダクション総合特撮スタジオ・プロダクション「ビルドアップ」)

肉と皮を別々に着る二層構造が、 ハイクオリティー・スーツ“パンダ”を リアルにした

本誌の読者でNHK教育テレビで放映されている「天才テレビくんMAX」の熱心な視聴者は少ないと思われるが、以前にその

番組内のドラマに登場したのが、「ハイクオリティー・スーツ“パンダ”」(以下「パンダ・スーツ」と略す)だ。

そのドラマのタイトルは「パパがパンダ」。「謎のおじいちゃんがくれた壺の力で、パパがパンダになってしまう」という話だ。外見はパンダだが、中身はパパなので、登場するのは人間らしいパンダである。しかし、写真を見てもわかるとおり、その外見は本物のパンダと見まがうばかりだ。

この秘密は、二層構造にある。

一般的な着ぐるみは、毛の貼られたウレタンベースの分厚い毛皮を着るようなものだが、それだとパンダ特有の転がるような挙動も、毛の塊がモゾモゾ動いているようにしか見えない。そこで考えられたのが、「中のスーツと毛を分けよう」というアイデアだ。「インナーマッスルスーツ」と呼ばれる、筋肉の隆起をウレタンで表現したものを下に着て、その上に最高級ポア(毛材)によるパンダの毛皮を重ね着する。インナーマッスルスーツ着用者が動くと、表面のパンダの毛皮と滑りあって、パンダならではの重量と体重移動の感じが出る。実は「すごくよくなるのか、ぼちぼちなのかは、わからなかった」そうだが、従来のものよりも良くなることを確信していたのでやってみたとする。その結果、狙いは見事的中し、当初の予想を大きく超える出来映えとなった。

パンダ・スーツが「ハイクオリティー・スーツ」と称されるゆえんは、この二層構造だけではない。頭部には計14個もの小型サーボモーターが内蔵されており、パンダの目や耳、口などを動かすことで、多彩な感情表現が可能となっている。本物のパンダにそれだけの感情表現はないが、映像の中で用いられるアニマトロニクスならではの演出だ。

パンダが笑ったり、怒ったり、悲しんだりする表情は、外部からのラジコン操作で、演出通りに制御される。パンダ・スー



ハイクオリティー・スーツ“パンダ” © buildup



ハイクオリティー・スーツ“パンダ” © buildup